# 化我方乃上

四

へ 13
2.004
4

2004
4

口一
好文堂
只誠藏

他我身のうへ　第四

一　好色の事
二　萬法一如たるべきの事付んぶきの事
三　我身つゝそんけいすべきの事付惡の事付
四　友よりの文をもらす
五　ゑんゆへ人とゆひてさたす
六　世界の地形のこと付生死一致の事
七　發句の結やう俳諧の德義の事
八　陰陽師と辻風の事
九　理のことゝたらい那の一條の事

他我作のうへ事は

一そもゝ人のもえくさぬれぎぬとぞ
とゞてをこそとるべけれ
もゝぐされ又ものゝ心よかるべきうへ
ものゝ生をいかゝ
なまさかふあひ行しうへ乃
ぞんずるこゝろもあるべしうへ
ものゝ心をとるべきこと
ものゝ心をとるべきこと
ものゝ心をとるべきこと

たゞひとすぢにやまとなる朝ぼらけのみるまでとしをつもりにけるかな

あとのゝ一首ゝ

ふるもうきさまでゆひたるもとゞりはあいなくとのゝ

りてゆはぬくるしさにかなしきものゝ

なるさまもしたしきものゝ

とゝのゝかうゝまうして髪言もてうひとたゝ

ぬぎすてゝとかうねるもゝ

とゝ

ふゝのゝ人のひとりしけるとうしもうたゞ

うしゝ人のゝ

はしきとゝつゞくもあり

ゝひとれどゝつゝくのさよふるもな

んなどはすゝ

おとゝひつゝけざるもあり

ゝんゝ

たゝゝのかゝうゝ

よゝのせゝ

しゝ

ゝれゝのひゝ

みゝゝ

ゝ

ゝ

どもはつれなくもあるかな
しのぶぐさ
さいつどきこそ
くとこそみるもうれしけれ
ぬるれもきゆめ
人こそもてあるまこと
うしげんのこゝろ
くとはてかこひ
無さもしるべくやべ
すわりてそれとも
たりうすもどこ

て
こゝろ
ひたり
たゝ
下の
たゝこそ
月いでや
ふねひて
こゝろ
又
みん

㊁我等凡夫海よりすゝめられて他宗を謗ひ
四つ人のそしるをうけ我せがこんあいたく人を信の
繁昌いづれも利益とうせてまてれば我法のごとく
き利益なるべきの證拠い其法語よりかゝれる書よ
くまと我一宗凡法の事和れ月よりまうとちがのてひ
たとくふかつこむい一切諸仏法とぬく信じ法よりたれども加
てて其法ふ其法ほうへいつぐうるんこれの万法流布
心して大海よりまぐるく毎凡うけ侍もるれ侍うる今俗
とちんゆ人なれ八宗の宗うのまるべ法をれ法
をうう方便仏と人のうう凡身とるすを見服よるて
人ふ鞠とけうとたいるもあ凡身とすりて見



こう君うう事とひうう月とうすゞめ花とうて為ちよ
れりいい見よりまるる凡院ふして用るの見れうう
るとけうう月ふて月るのるれうこうとかれ凡仏法
ふ法ふをうくこうさは余法る法凡凡ふこて法
君うるとけうう凡仏法華真言禅法精の法て其
法とけうむうれ其法君の法とけて余法るふ院とのの
宮くさ仏ん君ごううて い君ごううてあるふじょれ
と萬法一如うやうべんねうと一如うるのりのごのこと
ふうのるべ心いうとうかうるるくうべうてゆう
かうんれどう其うそむるうくうとうかうるる
つあううぼのうううゆくる法かんうよけるまれう

ゑんのもいもあげざるやさうだい

これをぞ
我うくるこゝろの月とぞ
とりてさくらあるじぞ
をうんぞひさらのとり
たり　雲とりて我月と
うんぞとうてさくら
三　我身はそこ人のこゝ
とを奇ふ　我とはなにぞ
人をそまて　我心は我月
さぞみぐうんほぞふさの
祈しぞいてぐ怨の字

推己之謂恕而已と朱文公は仰られしく己とは
のれ身なり人はあるものとして他人のようとは
なを語　さてどいてをそ
しらるもの怨はなのんと如心うしろ
いろうはぐくらてこれし我人のごくふ他人かて
あらるべさと文程子の說は施諸己而不願亦勿施於人
とあるをこれ一つはあるようとあもとべ
うぞくだくべ見物の場すぐらして我前の人の立て
て其後ぶされんとあるとうぐいやまてよすぐんとあ
ろう我一つはあるべ人我のびあるみ文ぐうるぐ
うぞうくいぐうくいやうんとうてぞんとはうも

みちよ忠知仁知ちぐいまもあれもまづかうぐ
ぬいの知のんとだよ知せいり知よ忠知仁知ちうひみて
いくらべし知れのなんいちろのかきぬあしどかうすみてみ
さるべーはとうやく

四 知とをのんあみなひ知へぐさとれる
わざとりまいそしかよ月とうのれど考て知
うみさまうとかることまどもれたのこりんむたる
しれば景れりれてそどすみれどまづたこと
のんとたんみうらぬ世あしれくよれいて
るはちあいてる考しるまるどひぐうへぐさる
うりべさまわどうたさるうこえうりそれんとまれ

いろとうとうぬわうとひみろうとうまるーといんん考すひ
んもんまふ考れいるまるんんいとるるへどるひう
きあとものるみ。ーまんたるまるうるまどにあるまれひまな
はいるしりるくの金れとれいるとそかううあてみえ
ううれまうものどりかうさうれどへれせにあうんんるるくかの
ーーーーえとどれそかーしどりんしうちれたのるいんんまま
あーしどるまうそうあるれたれ考いうーすくうれどくうるや
うるれどもう考といいれーすどるる考まーしれくーと
まううとみづーし考れとれるうるのうにりあるどるる
いうらるるさ考ともうてあ人ーまえみのうれ考ようれ金也
いるるるとへれううんるりまるとうえううんざら

ほどのかうるる流水をもつて洗ひうがいすゝのゆ
なほ清まずば一文字なりともあらばべし。種に文字八
とのとなるつぶのとして古人の詩さまひしとうや
(図)人の情かりとうの恵なすゆるしごとをうらかうら
ほうふるつぶ流さ流りて。ぞんとうあもつくさと
えうりうりうく我慢ひどうくそさうのあしじたくべう
よ他国ふ人わう方にうしくくしてうこと力学うて学ん
しまうあるれ洗うこうあもうひうるすどとうるとを
ふくくしくからう出人よなるう学郷と感じざんまうれた
ふうあうれ一巻おとうて。陰よ長人うて言ひつひよ
にくくなひしまうおうるうまこにやとこどあるうと

いうどとおるる物ごうと感ごうと人いりんあれもたれの
すると行来うげ後ごられぬこうのうりゆれいそりれりとも
すごひてうろくく影ゆとそうつどうよひうるひべし
長ゆごうりいを人ゆてうのうこうと感ごうこうんでゆう
なるうれ後とうて人ゆまでいうるるくゆうの人を
人とうて言葉とうそでず言葉とうしく人とうそずみう
ましくうや陽虎曰為富不仁。為仁不富とぜんん
陽虎いにとうしいばこうゆうどにうどうゆうまれ安
れなるみうと安よい富とうまれで不仁とにのうに仁
らうくうや人ゆうるのよとうんん。方に一つと
感ごうるうくん後んうと陽ゆうるんとうて云

葉とをつるゆくえもしれずとぶらうすもて
ありやまうとたづせとおもうものの君をとまつらの
(六)我門ふかぶらうへわう世界地獄のそとをつらう
ものの子さればもあまとうくあさうらうへあくぐ
ゆめとをうりとやどーてたづ〇来うんとは〇にかの
こはひかうあらぶへわう去ぬすの世界そのの物
わうり生ぐしがつぐれがいてむーあ地ゐけくぐまう
とをせうあびの神佛わうおうていきーいけく
らのかうれくのうひぶんとさづけのみとさま明世
つうとわうへおうとぽおうこうどいうくいづまのうこと
のい二色二色乃至百色千色のえぐさあうとれのこうち

一をうていうとうひうくうこうてのうられうあうくうづこと
とびあの死にうとうやぷられうんどうとうづう
うとまれうこうとうねうもうつうの男とあうまで食うて
づこうまうとうくぐ今うへんづういうまうへんと万世うう
かうみめづうとうまのたうこうまうとうれども世界のう
うそうとれひうう変ーて生ーて光に益うまうこうとうう
ぐ。佛經ハ三天須弥之四洲九山八海五百千萬億那
由他阿僧祇三千大千世界と云せうあるも未せい
ひうくうの世界い思維挍計うとうてうくうこうう
あうぐうこうや結ーまうぷ又四維東西南北上下天地不可思量
とうやう六合之外聖人存而不論ーまう文かもみうう

とうぞうこうみいて生とし生けるものの不死せざるものや
あるべきといわれ小かく人今うく人勿論まぬひとくぶ
ゆく死をあらはす字を亡字天地も一ぶひ生ぞうるものるし
ばなんでありをあらはれあるべきといわれ人かの例は変
者うくべとかくぶけたぐ常であるみてこそ事ぶうう
るの我用して変とうしてうるもの事ぶうう
といわれ人のそれ一ぶむう我こうにかく
きくわうさうぶ事ぶれなこうと一筋ひ移うれを
何とあくたんはうまぐに立られるべきたれな
きうぶこうたれ行う道理われみてのうあるを
なぐうして計ぶうもたれ行ればもたれかう

みゆ立事ぶ人ぶ始めんぼれものがうひ行うも
これと普通理とうくんぐうて立ぶ生ぶうあるひを
ぐうるべうんぐう天地のうとうとしの変すぐられ
ようとあんみいく生死一致のあるもあやと人いかくん
ぶうくのいくなんぐあるもぐさわしみぐう
うさるるうあれひうさ部うしうすあ
ましぐひうとうあひもあるぐれ一致うる不
小ぶうぐやとかくれうみくくう勿論死生亦大矣
而不得與之變とうすもぶまぐ見解ぶうぐ
其体ぶのあぐうもうう行うぬぐうに行うぐと見し
七 あるく人訛潜れ発明うぐうられ行しまぶ

いとく爲れてこゝに爲ん人のいさゝか明らめもさとりてしたゝめ作
られしを先師の撰ばれしうち誹諧の書と独ん言
うくゝを特とたふとびてそれ明らめしてこゝに
ものとなるかしいつゝに先世人のそゝやをこれくゝの
集の何の集の時代の作どゝ何のの集の時代の句なさ
て爲ゝ爲ふと独人ゝ人ゝ句ふるまでも句のよて
のわゝしゝゆゝやに詞ゝ同て白ゝで世ふ
出ゝ集とゝ世ゝ作ゝられ今世の集に
集ゝ世ゝ那言の書ゝ爲ゝもゝ爲ゝ
いづゝと那ゝ人ゝ答曰ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ
山の井るどゝ書ゝ爲ゝ爲ゝ書ゝ



是作の書れ作ゝ那ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ
れゝ爲ゝて世に那ゝ爲ゝ問曰ゝ爲ゝ爲ゝ句ゝ
山やゝゝと爲門の松ゝ爲ゝ人ゝ那ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ
句ゝ山やゝゝを爲門の爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ
爲ゝと答曰ゝ爲ゝ爲ゝ那ゝ答曰ゝ爲ゝ爲ゝ
月ゝゝゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ
とゝゝゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ
長ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ
爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ
爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ
爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ
爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ爲ゝ

書に胃と云ふ字とそこなひ
さんあるべしみな字と入て非云と云ふ
潤くこと云へ共ふくしたるひ非云ゆうこと
もとんのもなくあるべしこれ世の
非言いまだ非言もわるもとくとそこと
論とたんとうとうれどもうるわう
つきなくもあれもさもわう曰非滑とくし
何の法らあり蒼白非さうひのつさはうふうて孝出
出れ名はもとんと化し衆と為て悪とこと
芸のすもう一助なるもうまざくしますがやうう動
はうというやしさ民れ家ひてかの西王れ敬とは

誹諧と滑稽

うあ作ういたをとれよの事はあるとこ訛諧のうこはあと家
よ出られい法使あ之しいく非滑れあ字と滑稽乃
んと作ま作ゆうこと非滑稽れあ字とまりうがこ
しとまのもうもうあるとこもこんはうはかうは作
んで秦れ国は優論こひものわうはひかり
き俳諧れ国るうあ事とひそこと聖人の居ふるう。
外国ふ始とりとうあうとこのむ人なれば范国そ日本に
てられといりだたるう度家れ国うるうものと御里宮方
ものも作ふ長中へもうしれ鳥をざものとるうとれ狩
場のうくこと面み日んと作ふとこ。群臣外すと西
ふとこい初れざしふ長風よかるれあへていこむう者もう

ゆうせんの彼滑稽者は優婆塞とかゝる法師なれば
優婆塞づいてゝ一波らさ活らるゝ。彼ゆうせんも四
ひらり切れ。ゆうせんはどこへ行たんとせめまんと
こたへ。ひらの切と刻こうの鹿やかつてとゆう御諭を
四角八方へ切ちらさんとひられば。ゆうせんはやこたう。
こゝ二せのとさに加ろ。ぐさまとうとう城郭とゆうに
てゆんとうひとさぐろ。ゆうせんはひ
ぐらぐとぼぐそつらしふ。ゆう婆塞はこと。ぐそう
ゆうせんかこさまうて城へのぐりゝゝ。みて
らぐゝゝゆうせんをとひむくゝたやもく歌とうゆうとべ。ゆうせん
直ち城郭とゆうまてのこうゆうに。ゆうまぐこと云々れぐ

笑みかたりて出すもやがて聞もてゆくやうにうつる魏乃
文侯といふ人郡長として一しきりよるべとした我が仁君
まもりさきもあさうとゆんゆんにつまりて君の仁
君をうつしたてまつりひろさて羅横といふものゞ書をあ
つてみ仁君とおもはれしみ羅横がいつく仁君にあらずと
島の中へ中山といふ所へうつしかへつくる所に羅横
をゆくりなくと教を中山の翁せゝれ宇鄭の初めの
せうれいとして仁君をいたゝきまつりて上ル
ふ文侯大に感立ちて羅横と名をあらため
その所ぎは仁者といふもの業しけふ仁君
とうれしよ仁君人て曰ひつゝあり君ハ仁君



ゝ長君仁君なりとさまはるとこれ
あるとし使へうさきれ羅横がいつくすりつゝ
まるうまれて君と仁君なりと行ふとあらやや
ぶゝどうともとくびよりもふ文侯気色をと
つて文羅横とあゝ宮使よりもや文侯の
恵王といふ人蓮乃ゝ為をうたんとさに藤代
といふ人の恵王此家より出て易水といふ
濱でとあゝふりうさうとんこさうえぐ
うと海ゝ出てとわさはるこがうと仁者ゝ
鶴といふ鳥とび来りて牡蠣と人ばこびくこうう
てこゝ海がうれ月とうんとうとれうふ海ゝや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ぬ
[illegible]利はとちがひてあを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

う其所のうと月日までも記かくにとゝまたゞ
ゆきこれなす一歌の其人ゝトゝまにかゝれぬるものもな
うゝゝゝとし別ゝといつゝ他人てゝられかゝひて帰路
ゆてゝうて京洛通壷ゝみとゝゝ他人よりかゝりてい
つく我ゝまで先世の通とゝて到極のゝとゝゝひ
よゝ京ゝとゝゝゝゝゝゝられだゝゝゝゝゝ思後の通
ゝゝゝゝ壷ゝゝゝゝゝゝ

ものとおもひて童子に問ていはく我なんぢ天堂とそ
観とおもへとも明日体てまつべしとおもひてぢうを待み刑
生を相ひしかるに相ものいはく姫人の曰姫人が兄
しかるに弟なりとかくのごとくしかれば大神英
術といつる観とおもひてたちまちかくのごとくしかるに
みたりとおもひてぢうをもあはれみさ
うとあるものなれども仏神の影わるものといふ

九 獨りとじたる小桶一條とりあつまり沽すとうりさまに獨いとぐちもにじたん紙ぐさよりとじ合いありきとあれば苦とあまりすたる恵きといつ屋さ夢ゆまでもさめてあしどもとのもとのしびうらびたるいうてそれとなるべうすうといて心すすたくべうたにひうれ病人あんふいろく醫師を
はくらとさども驗るときとぶしよ病ち腹の彩
病とあつてんみ山ぐちいまじたる病のまるれば
家傷ぐ彩病いつぐあうべーと醫師ちんさよ立て是
れとれ彩ぐんふ山ぐいうんいむ病しも恵手金を
ふ彩法ありされるみたとれう明通ちうひるう

[illegible]ふ我一代よ唯一[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ものあれば[illegible]くらべみせてしつ一身体とも
[illegible]ものくもまれとも[illegible]ー是よりもとも民かして
国[illegible]寺の法[illegible]とをひさぐ[illegible]ハ一さんのひじ[illegible]のやうな
[illegible]ものも[illegible]ふうるどうげ[illegible]ものうて[illegible]て合とうう
[illegible]ものうぐ　ていあうべうぐたぐ過[illegible]すぐうたも
[illegible]べー我法[illegible]と是[illegible]のまうこもむくものすぐ
何をもそひくべーと[illegible]ハ[illegible]たれぞもうくえ
道[illegible]れいもはうるよわうしーこれうごとめを
ひとものい金とうを国をあるもむものい拡張をう
くーうさうろうろーこうこんうものうぐうう刑のをぐうれをこ
[illegible]の国[illegible]いまうる[illegible]の寺もうぐ人[illegible]ん孔子曰

好勇疾貧乱也人而不仁疾之已甚乱也　ばん
ゆーとうのこて我ぐーうさうとうふものいかてをぐうさ
あてもうるうれれうこハ義でもふうらうきにていうるぐ
るーいひくへのとれもくかうもうさきぐもうふぐーさハ
山[illegible]ふうぐ[illegible]山立強盗とふたぐひと人而不仁
疾之已甚乱やーこうう新文のうくへ[illegible]ーうのを
もあるうはうくふうてうぐうううーうさこ
少へとうくうんうとてうもふくのうもをうーひかく
うるうくうれぐうてうふくへ新ふわうとうるうのくうく
穆力とうーーうやうーうれいり[illegible]よふくうとう
くううものくうとうこくへ[illegible]ーうやのううふ[illegible]

下たるまうけうつ世ふまれ和儒者すぐ世第て
あるにふ貢石五百石ハ知てあるへくさ
とかえてれもあつるこれハ我宰人へ
んとはをとづこ海　とかんてうなもこや身にうう
てこえたこさとのるれども儒者とつくふのはな
れてくふるをつこうでハかるるあるすまうされどもま
儒ふよ国をまうをねうあ世人あてするれいはうこ云
ぐこしぬうあもうてもかうもあるもとあ者すうべ儒そ
いつこもものうりとうてあるる海一

新う男の上に立て流

好文堂